
名も無い物語 5

春功

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

名も無い物語5

【Nコード】

N8007B

【作者名】

春功

【あらすじ】

自分の存在理由、生きる理由、全てを奪われた人間は、何を信じて生きればいいのか？彼に残ったのは名も無い、思い出だけ。人間を憎めばいいのか、それとも、生きることをやめればいいのか。一人の人間、宏介は生きる道を模索している…。たった一人の人間の思いを綴った物語、第五弾が始まる。人間が人間であるための理由は、何だ。

(前書き)

絶望の間は、とても深く、暗く、そして強い。

「…あ、…うっあ…うっ
」

涙が止まらない。

自分を否定されてから、どれだけの時間が経ったのだろうか？

一日か

それとも、一ヶ月なのか

どれだけ、時計の針が時を刻んだのか、分からなかった…

時間が流れていくのが、怖かった。

みんなの見る目が、おかしい。

僕を見る目が、おかしい。

知ってる、この目。

人が、誰かの存在を認めさせない時の。

恐ろしいほど、冷たい、あの無機質な目。

「怖い…」

そんなに、僕が嫌いなのか。

認めてくれないのか…

『お前は人間じゃない』

お願いだ。

『ああ笠原ね、あいつゴミだよ、人間じゃない』

もう、やめて。

お願いだから…お願い、い…

「違…う、違…う！」

そう言われても僕は、人間だ。

人間なんだ。

だけど、自分で決め付けても、誰も信じてくれはしなかった。

自分だけがそう思っても、意味は無かった。

その言われた言葉に、何も変わりはないなかった。

心の受け皿は、苦しみと悲しみの濁った水で、溢れていた。

もう、壊れても、おかしくない。

誰も、僕に、生きて、とは言わない。

誰、一人。家族すらも。

「それなら、… お願いです」

誰もいない、ただの不気味な独り言。

それでもかまわないから。

「誰か、僕を殺して、ください」

いらないというのなら。

人間でないというのなら。

僕の全てを否定するというなら。

「　　ッ！！」

耐え切れなくなつて、大声で泣く。

誰も見ていない、一人だけの世界で。

こんなにも、自分で自分を傷つけて。

僕に残つたのは、十数年間の思い出だけだつた。

この思い出だけが、僕の全てだ。

「　ちつぽけだな、あはは」

自分で苦笑して、馬鹿らしくなつた。

残つたのは、誰もが見ても、笑い飛ばすような思い出だけだ。

名も無い、思い出だけだ。

だけど。

「それでもッ！僕は…生きていたんだッ！！」

思いの限りを、ぶちまけた。

自分の思い全てで、訴えた。

だけど、どれだけ叫んでも、聞いてくれなかった。

それが、人間なんだ、とあって。

また、ぼろぼろに泣いた。

生きていけるかな、と本当に考えてしまった。

生きたい。

(後書き)

絶望の底から見えるのは、遙か上にある一筋の光だけ。手を伸ばしても届くことは無い。

あたかも、光が幻のように見える世界。彼は生きて、いるのか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8007b/>

名も無い物語 5

2010年11月2日03時42分発行